【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成20年9月4日(2008.9.4)

【公表番号】特表2008-527104(P2008-527104A)
【公表日】平成20年7月24日(2008.7.24)
【年通号数】公開・登録公報2008-029
【出願番号】特願2007-550369(P2007-550369)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｆ　2/01　(2006.01)
Ｃ０８Ｆ　10/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｆ　2/01
Ｃ０８Ｆ　10/00　５１０

【手続補正書】
【提出日】平成20年6月30日(2008.6.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
好ましくは、前記再循環流は、反応器１６０に戻され、気体分配板１９５を通って流動床に戻される。ポリマー粒子が沈降して凝集して固体塊になるのを防止するため及び反応器底部に液体が蓄積するのを防止するため、そしてさらに循環気体流中に液体を含有するプロセスと該液体を含有しないプロセスとの間の容易な移行（双方向）を促進するために、反応器の入口に気体逸らせ板１９６を設置するのが好ましい。この目的のために好適な逸らせ板の例は米国特許第４９３３１４９号及び同第６６２７７１３号の両明細書に記載されている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３６】
反応器１６０からの粒状ポリマー生成物の排出時に、生成物から流体を分離してこの流体を再循環管１４９に戻すのが望ましく、好ましい。この分離を達成するためには、当技術分野において周知のいくつもの方法がある。１つ以上の具体例において、反応器１６０から出てきた流体及び生成物は、弁１７７（これは、開いた時の流れを最小限に制限するように設計されたボール弁であることができる）を通って生成物排出タンク１７５（１つ図示した）に入れられる。生成物排出タンク１７５の上及び下に、慣用の弁１７８及び１７９が配置される。弁１７９により、生成物が生成物サージタンク１８０（１つだけ図示した）中に送られる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】

典型的な運転態様においては、弁１７７を開放状態にし、弁１７８、１７９を閉鎖状態にする。生成物及び流体が生成物排出タンク１７５に入れられると、弁１７７が閉じられ、生成物が生成物排出タンク１７５中で沈降せしめられる。次いで弁１７８が開かれて、生成物排出タンク１７５から反応器１６２に流体が流れ込めるようになる。次いで弁１７８が閉じられ、弁１７９が開かれ、生成物排出タンク１７５中の生成物はいずれも生成物サージタンク１８０中に流れ込む。次いで弁１７９が閉じられる。次いで、生成物が生成物サージタンク１８０から弁１８４を通って排出される。生成物はさらに残留炭化水素を除去するためにパージすることができ、貯蔵所又は配合工程に搬送される。弁１７７、１７８、１７９及び１８４の特定的なタイミングの順序は、当技術分野においてよく知られた慣用のプログラム可能制御装置を用いることによって達成される。